

ロジスティクス環境会議  
第4回企画運営委員会 議事録

・ 日 時：2004年8月24日(火) 17:00～19:00

・ 場 所：東京・港区 (社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

・ 出席者：23名

・ 内 容：

- 1) 各委員会の活動状況について
- 2) 広報・普及専門委員会の活動について

・ 開 会

杉山委員長の挨拶にて、第4回企画運営委員会の開会がなされ、杉山委員長の司会進行のもと、以下のような内容が検討された。

・ 経過報告 / 各委員会の今後の活動概要について【資料1】

各委員会の委員長より、資料1に基づき、各委員会の活動状況の説明が行われた。

- (1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会 / 増井委員長
- (2) 源流管理による環境改善委員会 / 小西委員長
- (3) 省資源ロジスティクス推進委員会 / 山本委員長
- (4) リバースロジスティクス調査委員会 / 菅田委員長
- (5) 共通基盤整備委員会 / 津久井委員長

また、全委員会の説明終了後、以下のような意見交換がなされた。

- 委 員：全体を把握している事務局がチェックし、各委員会のアウトプットが有機的に相乗効果が出るように、軌道修正すべき点があればうまくリードして欲しい。
- 委 員：リバース分野の現状、あるべき姿、改善策等をまとめているが、参加メンバーの参加意識の温度差や報告書作成などは慣れていない方が多いため苦労している。
- 委 員：他委員会でも参加意識の異なるメンバーをまとめるのは難しい。早い段階でアウトプットの頭だしを行い、ゴールイメージの議論を行う必要があるのではないかと。
- 委 員：アウトプットについては、体裁や形式を整えることよりも、各メンバーが会社に持ち帰って活用できるものを作ることが望ましいのではないかと。

・ 議 事

杉山委員長の司会進行のもと、以下のとおり議事が進められた。

1) 広報・普及専門委員会の活動について

8月5日(木)に開催された第2回広報・普及専門委員会にて検討された内容について、以下のとおり議案として検討がなれた。

(1) ニュース・ジャーナルについて

### (1)ニュースとジャーナルについて【資料2】

事務局より、資料2に基づき説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

#### 【ニュースについて】

委員：速報性を意識したものにすべきではないか。頻度は少なくとも1ヶ月1回程度発信しないと、受取るメンバーも関心を示さないのではないか。

委員：法令や標準化に関する項目が無いが、環境会議としてウォッチすることは必要ではないか。法令については、改正されてなかったことを発信することも実務担当者にとっては重要なニュースになる。

委員：ホームページにジャーナルをPDFファイルで載せるとなっているが、ニュースも同様にホームページにも載せて欲しい。

#### 【ジャーナルについて】

委員：新聞やその他雑誌等で取上げられていることは、必要ないのではないか。差別化した内容を検討して欲しい。

委員：委員会の活動内容を中心に掲載し、会社側にどのような活動を行っているか知らせたい。

委員：委員会の内容も大切であるが、幅広い枠組みで検討するべきではないか。自分達の属する業界だけではなく、異なる業界の動向等を知ることも重要ではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、8月31日(火)に行う第3回広報・普及専門委員会で再度検討することが確認された。

### (2)シンポジウムについて【資料3】

事務局より、資料3に基づき、シンポジウムのプログラムについては、事務局原案であり、詳細については第3回広報・普及専門委員会で検討を行うこととし、開催の概要を中心に意見をいただきたい旨の説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

委員：パネルディスカッションのパネラーとして、経済産業省、国土交通省に加え、環境省にも出てもらった方が良いのではないか。環境省が出している環境パフォーマンス指標ガイドラインについても聞いてみたい。

委員：内容がCO<sub>2</sub>に偏り過ぎるのではないか。CO<sub>2</sub>以外も範囲に入れる方向で検討した方が良いのではないか。

委員：誰に対するメッセージなのか、明確にする必要があるのではないか。

以上のような意見交換の後、広報・普及専門委員会の小西委員長より、シンポジウムに参加した方が、何か得るものがあるような内容にしたい。そのために、シンポジウムで取上げるべきテーマや、内容について、是非意見をいただきたい旨の依頼がなされた。

また、シンポジウムについては、日程を含め、8月31日(火)に行う第3回広報・普及専門委員会で再度検討することが確認された。

### (3)オブザーバー会議について【資料4】

事務局より、資料4に基づき、オブザーバー会議については、提言をその場で投げかけるのではなく、提言に至る課題等が見えた段階で、気軽に意見交換ができる場とするため、9月頃に予定されていた第1回目の会合は延期することとし、名称についても再度検討したい旨の説明が行われ、前会一致にて承認がなされた。

(4)パブリックコメントに対する対応について【資料5】

事務局より、資料5に基づき、関係各省からパブリックコメントが出された場合、締切りまでの期間も短いことから組織的な対応が難しいため、環境会議として対応すべき重要なテーマを除き、パブリックコメントが出された事実を『CGL NEWS』等を通じて、環境会議メンバーに情報発信したい旨の説明が行われ、全会一致にて承認がなされた。

但し、関係各省から環境会議の活動が一目置かれる状況になれば、パブリックコメントを発信する事前に投げかけられるはずであり、環境会議がそのような存在になるよう更に活動を充実させていくことが確認された。

・閉会

以上をもって全ての議事を終了し、杉山委員長は閉会を宣した。

以上